

豊科南小学校における防災管理、防災教育の充実に向けた取組について

－ 学校防災アドバイザー派遣・活用事業 －

安曇野市立豊科南小学校

1 はじめに

安曇野市立豊科南小学校は安曇野市の南に位置し、西に北アルプスを仰ぎ、近くを拾ヶ堰が流れ、水田に囲まれている自然豊かな学校である。

児童数663名、1，2，3年生が学年4学級で4，5，6年生は学年3学級、特別支援学級4学級、こども病院の院内学級1学級を含め全26学級の中規模校である。広い校地を有し、1，2年生と特別支援学級が南校舎、3年生以上は北校舎でそれぞれの棟に独立している。また、バッテリー校舎のため、3年生以上の教室がそれぞれ独立した校舎になっている。

このようなことから、災害時には校地の到る所から児童が避難してくることが想定され、児童自身が防災教育の点から「自ら考えて避難できる」ことが大切であると考え。

2 安曇野市立豊科南小学校の防災組織

- 本部（校長、教頭、教務主任、防災係主任） ○連絡（教頭、教務主任、事務）
- 統率（学年主任） ○巡視 ○初期消火 ○救護 ○救急医療

3 今年度実施した避難訓練について

(1) 聞き取り訓練 4月9日（火）休み時間に実施

- ①ねらい 新年度になり、緊急地震速報放送を落ち着いた状態でしっかり聞き取ることができるかどうか確かめる訓練を行う。また、緊急放送がどの場所でも聞き取れるかを職員が確認をする。
- ②指導内容 緊急地震速報がなった場合、その場にすわり落ち着いて放送の内容を聞き取ることができたかどうか。また、各教室からの避難経路を覚えること、災害時の避難の仕方、放送の聞き取り、「おはしも」の確認をする。

(2) 第1回避難訓練 4月17日（水）2校時実施

- ①ねらい 理科室より出火、北風にあおられ燃え広がるおそれあり、避難経路を確認し、安全に避難する。
- ②指導内容 新年度になり、新しい教室からの避難経路を確認する。口を閉じて、担任の指示をしっかり聞く。

(3) 第2回避難訓練 8月29日(木) 5校時実施

- ①ねらい
 - ・緊急地震速報を聞き、すぐに避難体制をとることができる。
 - ・震度5弱以上の地震が発生。揺れが続く恐れがあることから、建物の倒壊などに気をつけて校庭に安全に避難する。
- ②指導内容
 - ・緊急地震速報を聞き、揺れに対応できる姿勢をとる。
 - ・自分の身を守るために帽子などを身につける。
 - ・放送を聞き、安全な経路を通して校庭に避難する。
- ③防災アドバイザーの指導
 - ・教師の真剣さから児童も真剣に取り組んでいてよかった。
 - ・机の下にもぐった時に机の脚をつかむことが徹底されていた。
 - ・事前指導の中で、いくつかの想定ごとに行動を考えておくことの大切さを伝えておきたい。「こういうときはこうしよう」「家にいる時はこうしよう」などと、見通しを持たせておきたい。

(4) 引き渡し訓練 8月29日(木) 避難訓練終了後実施

- ①ねらい 地震災害等の際に安全に下校するための引き渡し方法を保護者と共に確認する。
- ②指導内容 地震発生時の校庭に避難後、体育館へ移動したとの想定。体育館から保護者への確実な引き渡しを行う。前年度は校庭からの引き渡し、本年度は体育館からの引き渡し、来年度は教室からの引き渡しを行う予定。
- ③防災アドバイザーの指導
 - ・全体的にスムーズで確実な引き渡しができていた。
 - ・当日はコーンにガムテープで貼り付けて用意した各学年児童の待機位置を知らせるプレートを事前に用意しておくとの良い。「○学年」とラミネートしたものに紐をつけておき、いざというときはコーンに紐をかけて使用するなど、いざという時のために用意しておきたい。
 - ・動線を考えて更にスムーズに誘導できるように考えていきたい。コーンやバー等誘導できるものを使用する。入り口が混み合うので、誘導できるものを設置するとよい。

(5) 第3回避難訓練 11月6日(水) 昼休み実施(児童には予告しない)

- ①ねらい 震度5弱の揺れ(緊急地震速報40秒に設定)、地震速報及び緊急放送をきちんと聞き取ることができる。
- ②指導内容 緊急地震速報を聞き、揺れに対応できる姿勢をとる。
自分の身を守る帽子などを身につける。
放送を聞き、安全な経路を通して校庭に避難する。

(6) 防災アドバイザー来校指導 11月6日(水)

- ①防災マニュアルへのご指導
 - ア 緊急時のメール配信について

- ・安否確認・アンケート機能があり利用すると良い。

イ 各場所における基本的行動様式の確認、アドバイス

- ・頭を守ることを明記すること。
- ・場所によって行動様式が変わることを前もって理解しておくこと。
- ・校外学習に出た時に、校外で地震が起きた時はどのように行動すればよい
か確認する機会をとる。
- ・ショート訓練を数回行い、常に忘れないようにしておく。

②校内施設を回りながら現地指導

- ア 理科室等ガラスなどが飛んでこない「安全地帯」を設けておくこと。
- イ 図書館の書架の固定すること。
- ウ 避難所になった際の各部屋の開放と利用の仕方についてイメージを持っておく
こと。授乳・おむつ替えの部屋、思春期の女の子が避難している場合は配慮が
必要。
- エ キャスター付きの給食台などを固定すること。

5 今後の課題

- (1) 新任の職員であっても各教室での避難の仕方や安全地帯についてのイメージを持
ち、年度当初に児童に指導する。
- (2) ショート訓練を何度も行い、行動の仕方や各場所の安全地帯を忘れないようにして
いく。
- (3) 教室での安全な場所の確保や備品の固定など安全な環境作りを行っていく。給食台
のように日常的に使い、且つ各教室によって置き場所が違うものを固定することは
難しい。どのように対処していったら良いか検討が必要である。
- (4) 校外で災害に遭った場合の対処の仕方についても指導していきたい。

6 まとめ

地震に対しての避難行動や教室環境等についての意識は高まってきている。備品を固
定したり、避難路を確保しておいたりと実際の対応も進んできている。児童の意識も
高まってきており、万が一の時にどのようにして自分の身を守ればよいのか考えるこ
とができるようになってきた。

防災アドバイザーの先生からは具体的なアドバイスをいただくことができた。1回目
は保護者への引き渡し訓練を見ていただき、人の動きを見ながら「動線」を中心に振
り返ることができた。2回目は防災マニュアルの内容へのご指導と、校舎内を回りな
がら各所でアドバイスをいただいた。職員だけでは気がつかない各所に潜む危険につ
いてご指摘いただき大変参考になった。

今後、本校の課題について、早急にできること、計画的に行っていくことを検討し、
次年度の防災教育の計画に盛り込んでいきたい。

(文責 教頭 雪入哲也)

防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業の取り組みについて

― 緊急地震速報受信システムを利用した避難訓練の実施と

防災学習の実践 ―

安曇野市立豊科北小学校

1 はじめに

本校は、糸川 岡構造線の外縁に位置し、内 型地 の発生確率が極めて い場所に立地している。そのために、より実践的で効果的な避難訓練が要求され、児童一人ひとりが自分の身は自分で守る意識を育てることが急務となっている。

昨年度、 災アドバイザーから「緊急時に、児童自らが主体的に考え、判断し、避難 できるような力が必要となる」と本校の課 についてアドバイスをいただいた。アドバイスを受け、本年度は、一つの学級を抽出し 年生 緊急時における行動の仕方について考える 防災学習に取り組み、児童自らが考え、安全意識を持ち、自分の命を大切にしていける態度を育成する体制作りを目指し、児童や教職員の 防災意識の向上を図った。

2 安曇野市立豊科北小学校の防災体制について（概要）

毎年「学校 災計画」の見直しをするとともに、年度初めに「学校 護団」「避難 経路図」「休憩時避難 誘導分担図」の確認と掲示を行い、教職員への周知徹底を図ってきた。

3 年3回の避難訓練について

1 第 回避 訓練 月 日実施

授業中の火災を想定して行い、避難 経路の確認と安全な避難 の仕方を身につける。

2 引き渡し訓練 月 日実施

災害等緊急時に、保護者に引き取りに来てもらう必要がある場合の引き渡し方を身につける。

3 第 回避 訓練 月 日実施

授業中の地震とそれにとまなう火災を想定して行い、地震 や火災の 安全な避難 の仕方を身につける。

4 第 回避 訓練 月 日実施

児童に訓練の予告をせず、休み時 の火災を想定して行うことで、避難 指示の放送を聞き、自分で判断して安全な避難 経路を通り避難 する方法を経 する。緊急放送を聞くところまでを行う事前訓練を実施することで、放送を聞くことに重点を置く

とともに、個々で落ち着いて対応できるよう配慮をする。これまで緊急地震速報受信システムの地震到達秒数を 秒で設定してきたが、実際には、ほぼ同時に地震が発生する確率が 高いと聞き、今回の訓練から到達秒数を 秒で実施した。

4 防災学習の実施

- 1 日 時 月 日 月 校時
- 2 実施学年 年 組 男子 16 名 女子 15 名 計 31 名 荒井 愛 教諭
- 3 講 師
防災アドバイザー 信州大学教育学術研究 教育学系 島田 英昭 先生

4 授業の概要

① ねらい

資料をもとにして、学校や地域は地震に備えてどのような取り組みをしているか考えたり、学校で地震が起きたときどのような行動をすればよいか自分の考えをもち、友と考え合ったりすることができる。

② 授業の実

写真を提示 白 地の新聞記事 写真をみて思ったことは

家がくずれている。住むところがない。

恐ろしい。

みんなの住んでいるところは大丈夫そう

だめ。

こういうの見たことある 安曇野市災害マップを提示
家にあるよ。

皆の家はどうなっているかな 糸川・岡構造線があ
って、もし断層帯がゆれたらどのくらいの地震が起こる
かな

。

もし、学校にいる時、休み時に 強い地震が起きたらどうする
これからくじを配ります。同じ場所の人が何人かいます。同じ場所の人どう
しでグループになり考えてもらいます。



安全安心みんなのくらし 発生した日 月 日

名前 ()

○新聞記事や写真を見て思ったことを書いてみよう。

学習課題

学校や地域は、地震にそなえてどのような取り組みをしているのだろうか。

防災マップを見てみよう！

(1)「防災マップ」は、防災マップが作成したマップです。「洪水・土砂災害」「地震」がよりこまにされています。

(2) 地域の大きさは、8つの区域「区域」で分けられています。

(3)「ゆれやすさマップ」を見てみましょう。これは、「震度1～5弱」「震度5強～6弱」を基準とする地震（マグニチュード8、5）が発生した際の震度分布を表現したものです。

震度地域は、震度6強のゆれがくるおそれがあります！！

☆学校で地震が起きたとき、どのような行動をすればいいだろうか。くもる引いて自分の場所に来る、休み時間に震度6強のゆれが来ました。わたしはその時、身をを守るにいました。

地震発生！

＜自分のいた場所＞から同じグループで集まり、出口付近に集合しよう。

ゆれがおさまったら

↓

数分後

↓

数十分後

(1) 放送を聞く。

(2) ドアやきょうろをひいて、出口をかくはする。

(3) ひなんけいを認識し、ひなんする。

(4) 校庭に集り、整列。

(5) だまって待つ。

(6) 安全確認できたら、先生方が指示に従う。

(7) お室の方に「引き渡し」を行う。

ひなんけい
避難経路

→ →

学習の感想

【第 理科室前廊下グループ】

近くのガラスが割れるよ。

最初に放送を聴く。次に、窓ガラスのないところに行く。

蛍光灯は

ないよ。

真ん中に止まって…。

どこの真ん中

廊下。

気 蛍光灯 が落ちてくるよ。

ガラスや 気のないところで身を守る。

そこからどうやって脱出するか。

窓、割れたらどうする

理科室って調理室に近いよ。調理室が燃えて…。

そんなことないよ。

だったらどうやって脱出すればいい

ゆれが収まったら。

下 箱を通っていく。



休み時 に地 が起きた時の対応の仕方についてそれぞれのグループで考え合っていった子どもたち。場所の様子を思い出しながら、地 が起きた直後から避 するまでの経路もどうすればいいか、互いの考えを出し合っていった。

授業では、各グループで考え合った後、どんな話し合いになったか一つのグループが発表し終了した。

(5) 学校 災アドバイザーから受けた指導

- ・子どもたちは、よく考え合っていた。このように主体的に考える機会があることが大切である。
- ・安全だと考えられるのはルールができているから。
- ・周りからつつこみがあるのがよい。
- ・基本の動作 自分で考えることが大事。
- ・地 が起きた瞬 すぐに れる。その後どうするか。火事の場合と地 は違う。
- ・休み時 の避 マニュアルの確認。
- ・放送機器が地 で故 した場合の対処は

5 緊急地震速報受信システムを利用した避難訓練

システムを活用して、第 回避 訓練を実施した。

① ねらい

休み時 の地 を想定した訓練で、緊急地 速報が ったら落ち着いて身の安全を守り、自らの判断で迅速かつ安全に避 することができる。

② 日時

事前練習	月	日	休み時
避 訓練 本番	月	日	休み時 校時

③ 訓練の重点

- ア 授業時 外に地 が起きた の安全な避 方法について確認する。
- イ 緊急地 速報が ったときの身の安全の守り方を知る。落ちてこない・倒れてこない・移動してこない 安全な場所にすばやく移動し、 を守ってしやがむ。
- ウ 避 指示の放送が流れたら最後までだまって聞き、指示に従って避 する。
- エ 避 行動の振り返りを行い、地 時の適切な対応を学ぶ。
- エ 教職員は、分担場所の児童に的確に指示をし、安全に避 させる。

④ 訓練の流れ

- 緊急地 速報
- ↓ ・各自が居る場所に応じた身の安全確保をする。

避 指示と避

↓ ・避 場所を聞きとり、安全なところを避 する。

校内巡視

↓ ・教職員が、逃げ遅れた児童やけが人がいないか確認する。

人員確認

↓ ・学年・学級毎に整列し、教職員が人員確認を行う。

まとめの会

↓ ・消 署員、島田英昭教授、学校長の話聞く。

学級毎に振り返り

・ワークシートを用いて個々に振り返りを行った後、全体で振り返る。



6 事業の成果及び今後の課題

- 1 災学習の授業を通して的確にアドバイスをいただき、 災学習の必要性や改善点が明らかになった。
- 2 緊急地 速報受信システムの有効性を確認できた。
- 3 毎年入れ替わる職員に対して、定期的に、システムの理解を進める研修を設ける必要がある。
- 4 緊急時に、児童自らが主体的に考え、判断し、避 できるような力が必要となる。本年戸は 年生で 災学習について授業を行ったが、このような力をつけるためにも、学年に応じた 災に する授業を位置づけていく必要がある。

文責 教 菫本直樹

豊科東小学校における防災管理、防災教育の充実にに向けた取り組みについて

～ 学校防災アドバイザー派遣・活用事業 ～

安曇野市立豊科東小学校

1 はじめに

安曇野市立豊科東小学校は、安曇野市の東に位置し、児童数 178 名の安曇野市で二番目に小さな学校である。学区の東には光城山をはじめとする筑摩山地が連なり、西には犀川が流れ、自然豊かな環境である。しかし地震や台風に見舞われると、土砂崩落や河川はん濫の危険を抱える場所に立地している。

2 安曇野市立豊科東小学校の防災体制について

本校では平成 29 年度に緊急地震速報受信システムが導入され、学校防災アドバイザーが派遣されるようになった。職員や児童の防災に対する意識が高まると同時に、防災の観点から、校内の危険箇所が明確になった。

平成 30 年には、前年度指摘された危険箇所の危険防止措置をできる範囲で実施した。また、地域との安全会議において、学区内の危険箇所の確認や児童登下校中の避難場所の検討を行った。

3 学校防災アドバイザーの関わり

(1) 引き渡し訓練について

本校では、平成 28 年度まで参観日に合わせて災害時に備えての児童引き渡し訓練を行っていたが、実際の大規模震災が起きた時に対応できないのではないかという意見が校内で出され検討した結果、29 年度より参観日以外の時に訓練を行うことになった。本校は、交通量の多い県道から細い道を入ったところに位置している。通り抜けができる道路はなう、迎えにくる車と帰る車とのすれ違いが困難であったり、交通量の多い県道に出ることが困難であったりするため、徒歩または自転車による迎えをお願いしている。

昨年度、防災アドバイザーの信州大学廣内大助先生より、遠方の家庭や職場から迎えにくる保護者も少なくないため、災害時のお迎えに使える駐車場を決めてはどうかというアドバイスをいただき、安曇野市教育委員会の協力を得て、学校より 1 km ほど離れた場所にあるパチンコ店の駐車場を利用させていただけることになった。

本年度の引き渡し訓練は 9 月に実施した。廣内先生が打ち合わせにお見えになったのは 10 月であったため、口頭で本年度の引き渡し訓練の様子をお伝えしたところ、「実際にパチンコ店の駐車場はどのくらいの家庭で利用したのかを調べ、今後災害時に使えるようにしていくことが大切ではないか」というアドバイスをいただいた。そのため、パチンコ店の駐車場利用を含め、引き渡し訓練や本校の防災教育についてのアンケート調査を実施することとした。

(2) 避難訓練の参観と児童向け防災講演会

11 月 7 日（木）に緊急地震警報システムを利用して、休み時間における避難訓練を実施した。防災アドバイザーの廣内先生には、その様子を参観していただき、その後講評を

含め30分間児童に向けた防災講演会を行っていただいた。

4 事業の成果及び今後の課題

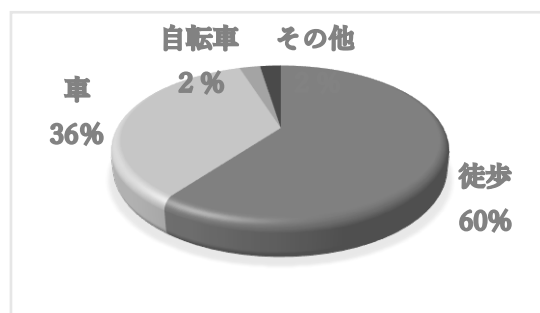
(1) 引き渡し訓練に関する保護者アンケートの結果

※ 回収数 123件（／全家庭数137件）…回収率89.8%

① 問1「学校にはどのように来ましたか」

方法	人数(人)	割合(%)
徒歩	74	60
自家用車	*43	36
自転車	3	2
その他	3	2

*自家用車のうち、パチンコ店利用者
18件（42%）



② 問2「児童が学校へ行っている間や、保護者と別々に過ごしているときに地震があったら、集まる場所や連絡方法など、日頃から確認をしていますか」

<集合場所>

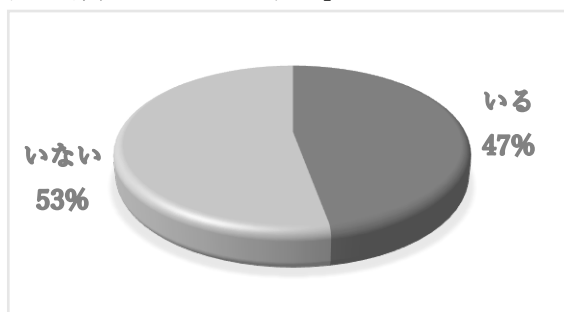
自宅・近所の避難所・学校（校庭）

友人宅・祖父母宅

学校か自宅のどちらか近い方

<自由記述>

- ・無理をして河や橋を渡らない。
- ・何日か家族と会えない場合もあるが、回りの人と助け合うこと。
- ・災害が起きたら学校に子どもを迎えに行くので、別途集合場所は考えていない。
- ・学校と自宅との間に大きな川があるので、どうしたらよいか悩んでいます。
- ・住んでいる区域の避難場所が東小になっているが、そこまで行くのに田沢橋を渡らなくてはならないのが心配。
- ・これから話をしたいです。大切なことです。・具体的には話ができていません。



③ 問3「来年度より引き渡し訓練を年度当初（5月頃）実施したいと考えています。そのことについて、何かご意見等がありましたらお書きください。」

- ・記述なし…104件（85%）
- ・賛成…6件
- ・「行事（運動会）と重なると休みが取りにくい」「1年生が慣れていないのではないかな」等反対意見…9件
- ・以前のように参観日にやってほしい…4件

④ 「学校で行っている防災教育等についてご感想やご意見、ご要望等ありましたら自由にお書きください」

- 年々少しずつ改善され、引き渡しも現実になくなったと感じました。子どもたちも避難することからセットでできるとよりいいなあと思います。
- 日頃から防災について、学校でしっかり教えていただいていることを子どもより聞き、ありがたく思っています。今後ともよろしく願いいたします。
- 予告なしで行うと、やはり緊張感があり良いと本人が言っています。
- なかなかきちんと時間をつくって家族で防災について話せていないので、学校で先生やお友達と一緒に学ぶのはありがたいし、大切だと思います。家でも話すきっかけに

なります。

- ここ数年は地震や水害など多いので、訓練はとても大切だと感じています。引き続きお願いしたい。
- いつも丁寧なご指導をありがとうございます。今後ともよろしくお願いします。
- 親より子どもの方が危機感を持っています。学校での教育が反映されていて、とてもありがたいです。
- △ あらゆる災害に対応できるよう研究していただき、いろんなパターンがあることを子どもたちに伝えてほしい。
- △ 学校が犀川より低い位置にあるので、台風19号の時のような大雨がきたときに児童は避難できるのか不安です。
- △ 浸水についてや強風について（物や倒木）も具体的に教えてほしいです。
- △ 雨量に関わらず、子どもだけで河川に近づかないということを学校でもっと指導していただきたいです。
- △ 今回の台風19号を受けて、東小においても犀川の氾濫時の避難方法や引き渡す手段等、避難計画の策定及び再考いただけるとありがたいです。また、各家庭でも改めて考えなければならないと思います。
- △ 引き渡し訓練についてですが、実際に災害が起き、一刻も早く迎えに行かなければならない時に、仕事場からA（パチンコ店）または家に戻って徒歩（自転車）で学校に行くということはないのではないかと思います。
- △ 本年度も徒歩での迎えとのことでしたが、仕事の都合上、徒歩では無理で学校まで車で迎えに行き、子どもを家まで送り、また仕事に戻りました。徒歩での迎えに協力できず申し訳ないと思っています。ただ、仕事を休みづらいのもお察しいただけたら幸いです。勝手なことばかりいって申し訳ありませんが、中にはそんな人もいると知っていたらと思います。
- ▲ 本年度の引き渡し訓練は子どもたちに緊張感がなかった（2件）。

アンケート結果を受け、来年度の引き渡し訓練の時期や方法について検討していきたい。また、台風19号での長野市の水害を受け、危機感を持っている保護者は少なくないことを感じた。犀川の氾濫による水害についても、市教委や市危機管理課と連携を取りながら、具体的な方策を考えていかなければならないと感じている。

（2）避難訓練と廣内先生の防災講演会

① 避難訓練の反省と廣内先生のご指導

＜児童について＞

- 体育館や校庭では中央に集まって身を守る姿勢がとれていた。他の場所でも概ね上手にできていた。
- 緊急地震速報が鳴り終わると同時に、遊び始めた子どもたちがいた。

5日の休み時間にシェークアウト訓練をした際、「これで訓練を終わります。遊びに戻ってください」という放送を入れてなかったのが、今回もこれ以上の避難がないと子どもが判断した結果だと思われる。こちらの反省点。

大規模地震の後、崩落などの危険箇所があったり、放送機器が使えなかったりする場合も想定される。地震→点検→職員室へ報告→口頭で避難指示→避難・見回り点検という練習も予め担当を決めておいて、行う必要があると思われる。

＜職員動きについて＞

- 動きは概ねよい。残留児童確認の先生は、大きな声で「誰もいませんか」と声をかけた方がよい。誰も残っていないことを確かめたという印で○をつける。
- 窓を開けている先生がいたが、開ける必要はない。窓ガラスの飛散防止のため、地震発生までに時間があり余裕があればカーテンを閉め、退路確保のため教室の出入口のドアを開けておく。これは児童にはやらせず、必ず先生が行う。

残留児童を探す職員も早く避難する必要があるので、見回りのポイントをはっきりさせておく（トイレの個室、掃除ロッカー、パッと見えない箇所等）。そして必ず大きな声でいないかどうかの確認をする。

避難訓練の実施計画に「窓を開けてカーテンを閉めて避難開始」とあったのを先生方が忠実に守ってくださったことに、返ってご指導いただいてしまった。「地震があと1分で来ます」という放送の後、上記の理由でそこにいる職員がカーテンを閉め、出入口のドアを開ける。

＜廣内先生のお話の骨子＞

- 今、地震が起きたらどうなるか、そうしたらどのように行動したらいいのかということ、いつも想像力を働かせていることが大切。
- いざと言うとき近くに先生がいないかもしれない。自分で考えて命を守る行動をとれるようにしていく。

来年度の消防計画には、休み時間や清掃時間中に地震が発生したら、誰がどこを見回るのか、誰が児童を避難させるのか、誰が職員室に連絡をいれるのか等、考えられる範囲で計画に盛り込んでいきたい。

② 廣内先生の講演会を聞いての児童の感想（抜粋）

- ・災害はこわいなと思った。ちゃんと考えようと思った。【1年】
- ・安曇野市は安全だけど他のところは大変なことがあるから、自分たちでできることをやりたい。助けてあげたい。【2年】
- ・いつも地震が起きてもいいように考えておく。【3年】
- ・もし、ぼくの地域もこんなふうになったらどうすればいいだろう。危険は場所はどこなのか確かめよう、と廣内先生のお話で思いました。【4年男子】
- ・家ではあまり備えをしていないから、備えや必要なものをリュックなどに入れておきたい。【5年女子】
- ・地震だけではなくて、台風や火事もこわいなあと思いました。先生がいないところでは、上級生が避難の方法を教えてあげられるようになりたいです。【5年女子】
- ・災害はいつ起こるかわからない危険なものだと話を聞いて改めて分かった。本当に災害が起きた時、自分の身を守る行動をしたいと思った。【5年男子】
- ・どんなところでも災害が起きて、命が危険にさらされる場合が絶対あるということがよく分かりました。今もたくさんの方が大変な思いをしていて、その人たちのために何ができるのだろうかをよく考えていきたいです。この講演をムダにせず、どんな災害が起きてもきちんと考えて行動できるようにしたいです。【6年女子】
- ・訓練だからちゃんと避難できたけど、本当に災害があったら怖かったりして避難できないんじゃないかなと廣内先生の話聞いて思った。ぼくは、すごく雨が降っているときに、おもしろがって用水路に入ってしまったことがあったけれど、廣内先生の話聞いていたら、本当にだめなことなんだなと思った。【6年男子】

（文責 教頭・河合ちほえ）

豊科南中学校における防災管理、防災教育の充実に向けた取り組みについて

— 学校防災アドバイザー派遣・活用事業の導入—

安曇野市立豊科南中学校

1 はじめに

安曇野市立豊科南中学校は安曇野市の中央に位置し、西に北アルプスを仰ぎ、学区に拾ヶ堰が流れ、水田に囲まれている自然豊かな学校である。豊科中学校が豊科南中学校と豊科北中学校に分かれ、本校は昭和60年に開校した。生徒数337名、1, 2年が3学級で3学年は4学級、特別支援学級3学級、こども病院の院内学級1学級を含め全11学級の中規模校である。校舎は南と北に1棟ずつであり、1階と2階にそれぞれの校舎をつなぐ渡り廊下が設置されている。北校舎には校庭側（北側）に非常階段があり、すぐに屋外に出られるような構造になっている。

学区内に山や大きな河川がないためか、防災に対する意識はやや低い。災害はどこにでも起きることを意識させ、自分の身を自分で守る意識を高め、行動を起こせる生徒を育てたい。本年度、緊急地震速報受信システムが設置された。今年度は2回目と3回目の避難訓練で、緊急地震速報受信システムを使った訓練を行った。

2 安曇野市立豊科南中学校の防災体制について

本校は、緊急地震速報受信システム設置前は、年1回（9月）の地震を想定した訓練を行っていた。手順と生徒への指導は以下の通りである。

＜発生時の訓練の手順＞

- ・放送による事前指導（服装準備、要点の確認）
- ・校内放送にて、震災訓練を行う意義と、大地震が起きたときのシミュレーション映像をみる。（動画は内閣府、防災 【首都直下地震編】全体版を流す）
- ・学級担任による事前指導
- ・地震発生 教頭 緊急放送
やや間をおいて10秒間サイレンをならす。（地震の揺れを示す）
- ・本部 揺れのあと校舎の状況を確認し、行動（教室待機・グラウンド避難）を決定し、全校に連絡する。
- ・事務室 本部の指示で消防署に通報
- ・副担任は揺れのあと、校舎内を巡視しながら職員室に集まり、校舎の状況を教頭・教務主任に報告する。火災発生の際は、本部の指示に従い、数名で消火器を持って現場に向かう。本部の指示に従い、避難指示の放送のあと、保健室と教室からの生徒の避難を補助し、逃げ遅れがないか最終確認する。
- ・教務主任は、ハンドマイクを持って中庭に行き、全校に指示する。「地震は一旦おさまったが、引き続き地震の発生が予想される。全員校庭北側に避難せよ。」指示を繰り返す。

＜生徒への事前指導＞

- ・普段から、高いところや通路をふさぐ場所に物を置かないようにする。
- ・地震が発生した場合は、できるだけ早く机の下にもぐり込み、身の安全を確保する。
- ・火災の発見者は非常ベルを押し、可能な範囲で初期消火にあたる。
- ・煙、ガスの被害を避けるためにハンカチを常備し、口と鼻に当てて避難する。
- ・窓・出入り口を開け、カーテンを開け、消灯して避難する。

3 緊急地震速報受信システムを利用した避難訓練

(1) 緊急地震速報受信機設置に関わる取組

ア 教職員に対する説明、研修

緊急地震速報システムが導入されること、強い地震が来ると予測されたときに到達時刻や震度を素早く知らせしてくれるシステムである。このシステムを導入することで、強い揺れが来る前に生徒や職員がいち早く身を守る体制を取れることを職員会議で説明した。第2回の訓練から使用することを確認した。

イ 生徒に対する指導

システムの内容と導入の利点、またシステムが作動したときにはすぐに身を守る姿勢を取ることを学級担任より指導した。また、第2回避難訓練の前にどのような放送が流れるかを実際に流して確認した。

4 緊急地震速報受信システムを利用した避難訓練

(1) 第2回避難訓練（地震からの火災発生を想定した訓練）

① 実施日 9月2日（月）第3校時

② 訓練の概要

ア 訓練の意義や緊急地震速報装置について各学級で指導

イ 緊急地震速報システムの作動 ウ 避難経路の安全確認

エ 避難指示 オ 生徒と職員の人員確認

カ 防護団活動（係活動の確認） キ 講評（松本広域消防局安曇野消防署員）

③ 緊急地震速報装置使用について

今回は、システムに慣れるというねらいで行った訓練であった。指示に従って、身を隠す行動や避難が整然とできた。

(2) 第3回避難訓練（地震を想定した訓練）

① 実施日 11月7日（木）第2時後の休み時間～第3校時

② 訓練のねらい

ア 緊急地震速報システムの作動 イ 避難経路の安全確認

ウ 避難指示 エ 生徒と職員の人員確認

オ 指導・助言（学校防災アドバイザー 本間先生）

③ アドバイザーの派遣により改善した点

ア 講演から「正常性バイアス」を疑い、避難することをためらわないということや災害時は人のことを気にするのではなく、自分の命を守ることが優先であるといったことが職員や生徒たちの中に残った。

5 学校防災アドバイザーの関わり

(1) 学校施設の点検

① 実施日 10月11日(金) 9:45～

② 指導・助言

ア 動くものの固定

電子黒板 提出ノート置き場になっている机や棚 楽器 棚

イ 避難経路の確保

教室の出入り口付近にものを置かない。

ウ 教室のどこかに安全地帯を作る。

エ ものを整理して減らす。

オ ベランダへの出入り口付近はものを置かずに空けておく。

カ 冷蔵庫の固定

(2) 第3回避難訓練への助言

① 実施日 11月7日(木) 第2時後の休み時間～第3校時

② 指導・助言

- ・速報の音が聞こえた時点ですぐに身を守る行動をとる。
- ・廊下では窓から離れた場所で座る。
- ・途中で警報がなってしまったら、窓から離れた壁際で身をも守る。階段は落ちる可能性があるので危険な場所。上がる(下がる)場所があれば、廊下まで行って身を守る。
- ・体育館への避難は一箇所だとつまってしまうので、経路を見て、つまっていないほうから避難するようにする。(皆が同じところを通過して避難しなくてもよい。回りをみて、自分で判断する。)
- ・先生の指示を待って並んで避難するのではなく、自分で判断して避難する。いつも先生や大人が近くにいるわけではない。自分の命は自分で守る。 など



6 事業の成果と今後の課題

(1) 成果

- ① 職員や生徒の防災意識が高まった。
- ② 防災アドバイザーの具体的な助言により、施設設備の固定や避難訓練の方法などに見通しがもてた。

(2) 課題

- ① 施設設備の整備について取りかかれるものから実行していく。
- ② 第3回避難訓練は休み時間の想定であった。生徒自身が判断して避難しなければならないところを職員が整列させて引率避難する場面が見られた。生徒自身が自分で判断して避難する意識をつける必要がある。
- ③ 地域と連携した防災訓練ができていない。今後大切になってくるので、来年度より取り組みたい。

(文責 教頭 中川 由香里)

災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業の取組について

—緊急地震速報受信システムを利用した避難訓練の実施と

職員・生徒の防災意識向上をめざして—

安曇野市立豊科北中学校

1 はじめに

本校は、安曇野市の中心に位置し生徒数 357 名の学校である。美しい北アルプスを望み田園風景が広がる「安曇野らしい」地域に立地している。一方で、学区内には安曇野インターチェンジ・豊科駅・田沢駅があり、「安曇野の玄関」の地域でもある。保護者には本校の卒業生が多く含まれているが、都市部から移り住んできた保護者も多い。従って、共働きのご家庭が多く、災害訓練における引き渡し訓練はこれまで実施できていない。

安曇野市は、近年大きな地震に見舞われていないが、糸魚川静岡構造線上に位置し、特に本校は活断層付近に位置していることから、今後 30 年以内に震度 6 弱以上の地震に見舞われる確率が高いと言われている。そのため、「防災教育の充実」は、地域・保護者からの要望も多く、本校の喫緊の課題となっている。そこで、「緊急地震速報受信システム」を活用し、学校防災アドバイザーの指導を受けることで、生徒・教職員の防災意識の向上を図った。

2 防災体制について

(1) 防護団組織

係 名 (主な職員)	主 な 任 務
本 部 (校長・教頭)	全体指導、指示伝達、状況報告
通 報 (教頭・主査)	対外関係の連絡、受付、出張等による欠員補充
避 難 (学年主任)	安全な場所への避難誘導、人員確認
消 火 (学年副主任)	初期消火、消火栓操作
警 備 (生徒指導主事)	生徒の安全避難点検、搬出物の警備と保全
搬 出	校長室、事務室、職員室、保健室等の重要書類等の搬出
救 護 (養護教諭)	救急の処置、けが人や病人の手当

(2) 避難訓練実施状況

避難訓練は、これまで年 2 回行ってきた。今年度は、1 回目は従来どおり行い、2 回目は「緊急地震速報受信システム」を活用し、学校防災アドバイザーの指導もいただく方法に変更して行った。

3 緊急地震速報受信システム設置前の避難訓練について

第1回避難訓練（火災を想定）

(1)期 日 平成31年4月10日（水）11:50～12:40

(2)内 容

- ① 事前指導：避難経路・約束事の確認
- ② 火災報知器感知：通報訓練・放送による指示
（聞き取り訓練）
- ③ 避難：体育館へ避難・点呼・報告
- ④ 係活動：各係での活動
- ⑤ 講評：消防署員・校長のお話
- ⑥ 事後指導：振り返り



第1回避難訓練(全校避難完了)

4 緊急地震速報受信システムを利用した避難訓練

(1)期 日 令和元年9月3日（火）13:35～14:25

(2)参観者：信州大学学術研究・産学官連携推進機構 助教 本間喜子先生
市教育委員会 大倉雅俊さん

(3)職員研修：事前の係案審議とともに、次のような研修を行った。

- ① 学校安全総合支援事業の概要と今後の計画
- ② 緊急地震速報受信システムについて
- ③ 事前指導の内容について

ア約束事や避難経路等は火災時と同じ。但し、放送の内容によっては、避難経路を変更する必要がある。

イ速報音や放送が聞こえたら、動きを止めしっかりと耳を傾け、内容を聞き取る。

ウ机の下に入るなど、頭部を守る動きを素速くする。

(4)内 容

- ① 事前指導：約束事の確認・緊急地震速報音や緊急放送を聴いたときの対応
- ② 緊急地震速報放送：放送による指示（聞き取り訓練）
- ③ 避難：校庭へ避難・点呼・報告
- ④ 係活動：各係での活動
- ⑤ 講評：消防署員・校長のお話
- ⑥ 消火器訓練：消防署の方からの指導・生徒代表による体験
- ⑦ 事後指導：振り返り



消火器の使い方を全校で学んだ



校庭へ避難する生徒

5 学校防災アドバイザーの関わり

学校防災アドバイザー：信州大学学術研究・産学官連携推進機構 助教 本間喜子先生

(1) 令和元年 9 月 3 日（火）13：35～14:25

第 2 回避難訓練参観

(2) 令和元年 9 月 18 日（水）14：30～

①校内の巡視を行い、防災安全上の配慮や対策が必要なことを、次のようにご指摘いただいた。

場 所	指摘された内容
昇降口前廊下	パーテーション・購買のガラスケース等が不安定
技術室・図書館・美術室など	電子黒板（TV タイプ）が不安定で危険
特別教室（理科室・美術室など）	椅子を机にあげると、地震の揺れによって飛んでくる可能性がある。
各教科準備室	棚に入っている書籍が多い。 扉が閉まっていないところが多い。
各教室	他の上にラジカセ等が置かれている。
音楽室・体育館	ピアノの足が固定されていない。ピアノの下に入ることができる。
避難経路・出口	出口にモップが置かれているなど、避難の妨げになる恐れあり。

②職員研修会で、全職員を対象に次のようなご指導をいただいた。

ア 避難訓練について

- ・生徒が、静かに真剣に取り組んでいた。
- ・防火シャッターが降りて非常扉から避難する際、避難がスムーズになるように扉を押さえてくれた生徒がいた。こういう姿を取り上げ広げたい。
- ・地震の場合は、速報が鳴ったらすぐに身を守る体制をとるように指導したい。
- ・避難時に渋滞を起こしている場所もあったので、分散を検討してはどうか。
- ・各教室に防災バックの用意を検討したい。

イ 施設整備の視点

- ・安心安全な学校づくりは、何よりも最優先。
 - ・激しい揺れを想定し、周りにいる者が怪我をしないようにする。
 - ・我々職員のこれまでの意識の改善が必要。
- 棚の中の書籍や棚の上に置かれた物が動きにくい状態になっているか。
- 動いてしまうものであっても、「一度止まってから動く」「動きが遅くなる」工夫をする。

ウ 全体を通して

- ・地震や防災について、生徒が正しい知識を身につけることができるようにしたい。

6 事業の成果及び今後の課題

- (1) これまで毎年避難訓練を行い、反省を出し合い、改善するということを繰り返してきた。その度に同じような反省が出され、試行錯誤を続けてきた。今回、本間先生から具体的なご指導をいただいたことで、目指す方向が明らかになってきた。
- (2) 避難訓練は、職員一人一人が役割を担っているため、全体の動きを見ることが難しかった。本間先生にご指導いただき、生徒のよい姿とともに、様々な課題に気づくことができた。今後、この課題について職員で検討していきたい。
- (3) 本間先生に防災上の視点で校内を巡視していただき、気づいた点についてご指導いただいた。教室で当たり前になっていることの中に、危険が潜んでいることが分かった。先生のご指導を受け、全職員で点検を行い、改善を図ることができた。今後も、施設面の改善を図っていきたい。



- (4) 専門家の視点で、本校の防災教育や環境を点検し、ご指導いただいたことで、職員の防災への意識は確実に向上したと考える。しかし、生徒への指導については不十分な点が多いことがわかった。来年度以降、生徒の防災への意識を高めるために、取組を継続していきたい。

(文責 教頭 奥原 竜司)

**穂高西小学校における
防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業の取組について**
—緊急地震速報受信システムを利用した避難訓練の実施について—
安曇野市立穂高西小学校

1 はじめに

安曇野市立穂高西小学校は、安曇野市の北西、田園地帯に立地している児童数 411 名の学校である。学区は、松本から大町につながる国道 147 号線の西側から国営アルプス安曇野公園がある牧地区にまたがっている。近年、安曇野市は大きな地震に見舞われてはいないが、平成 23 年には隣接する松本市を震源とした震度 5 強の地震が、平成 26 年には白馬村を震源とした震度 6 弱の地震が発生している。安曇野市全体が、糸魚川静岡構造線上に位置していることから、今後 30 年以内に Mj8 程度の地震が発生する可能性は 14%といわれている。

学校周辺の交通事情を鑑みると、保護者や外来者の駐車スペースが十分に確保できないことが懸念される。また、学校西側を走る大型農道は交通量が多い一方で、学校周囲の道は狭く、さらに保育園が隣接しているため、災害時は交通渋滞が予想される。

2 安曇野市立穂高西小学校の防災体制について（概要）

「学校防災計画（消防計画）」「危機管理マニュアル」によって、災害時の防災に備えている。防災組織は、学校長を本部長、教頭を副本部長として、総務、情報伝達、警備巡視、避難誘導、救護、搬出、消火の 7 つの係を編制し、全職員で組織している。また、年度当初の安全防災教育係の計画に則って、年間で 3 回の避難訓練を実施している。これに加えて、5 月に保護者の協力を得て、児童引き渡し訓練を実施している。今年度は、県の「学校防災アドバイザー派遣活用事業」により、信州大学教育学部教授廣内大助先生に 2 回来校いただき、防災対策についてご指導いただいている。

3 緊急地震速報受信システムを利用した避難訓練

(1) 緊急地震速報受信機設置に関わる取組 ～年に数回シェイクアウト訓練を実施～

実施前、朝の学活の時間を利用し、放送を聞いたら、素早く「危険なものから遠ざかる」「しゃがむ」「頭を守る」の 3 つの行動をとれるよう担任の事前指導を行った。そして数日後に、緊急地震速報機の訓練モードを利用して実際に放送を流して訓練を実施するという形をとった。これを、「授業時間」「休み時間」とパターンを変えて年に数回実施した。回数を重ねるごとに、緊急地震速報の警告音に対する児童の反応がよくなり、その場での素早い危機回避の対応がとれるようになってきている。

(2) 緊急地震速報受信システムを利用した避難訓練

11月20日に、緊急地震速報受信システムの訓練モードを利用して、地震に備えるための無告知避難訓練を実施した。3時間目の授業時間帯に訓練放送を全館一斉に流した。なお、今年度は、地震によって放送機器が使用できなくなったという想定も加え、職員室や事務室にいる職員が学校長の指示を受けて避難を呼びかける訓練も行った。

児童は、安全を確保する行動がとれたかどうか、揺れがおさまったあと、「おはしも」の合い言葉を守って校庭に避難できたかどうかを評価の観点とした。また、職員は、児童全員を「速やかに・安全に」避難させることができたかを評価の観点とした。

防災アドバイザー廣内先生、市教育委員会の担当者にも実際の避難の様子を見ていただき指導を受けた。



校庭避難時の児童の様子

4 学校防災アドバイザーの関わり

(1) 避難訓練時の指導 (11月20日)

ア 緊急地震速報発報時の児童の安全確保の行動、及び避難の様子を見ていただき、最後に生かす点についてアドバイスを受けた。

- ・児童の安全確保や避難の様子から、無告知訓練としては、比較的望ましい行動がとれていた。
- ・緊急地震速報の放送が流れた時に、日頃の訓練の積み重ねの成果がでており、危険回避をする行動がとれていた。

<職員の課題>

- ・「児童を確実に避難させる」ということをさらに考えて動けるようにしたい。例えば、避難する際、学年内の先生どうしが連携して、「先導する先生」「後ろにつく先生」「児童がいないか確認しながら後を追う先生」などの役割を決めたらどうだろうか。
- ・地震に備えて扉を開ける、地震の際には部屋のカーテンを閉める等、可能な限りでよいが日頃から心がけたい。
- ・様々な想定の実訓練をしたい。(3年に1サイクルとなるように避難訓練の計画を立ててほしい)

<児童の課題>

- ・帽子が近くにあればかぶるようにする。何もしないよりはけがを回避できる。自分で安全を確保する手段を考えさせる指導を積み重ねる。

(2)職員研修での講演（1月28日）

実際に災害が起きたとき、学校の果たすべき役割についてお話をいただき、職員が、子どもや地域の方を目の前にして、具体的にどんなことをしていけばよいのか学び、互いに考え合う機会となった。

5 事業の成果及び今後の課題

防災アドバイザーの指導を受けたことにより、新たな試みに取り組もうとする意識の高揚を図ることができた。また、緊急地震速報受信システムにより、訓練をより正確かつ迅速に、繰り返し行うことが容易にできた。一方で、校内施設のさらなる安全対策を講じていくと共に、震災時に教師が即座にとる行動について確認し、行動に移せるようにしていきたい。

（文責 教頭 大野 幸児）

穂高東中学校における防災管理、防災教育の充実に向けた取組について

－ 学校防災アドバイザー派遣・活用事業 －

安曇野市立穂高東中学校

1 はじめに

安曇野市立穂高東中学校は、澄んだ空気と美しい水に恵まれた安曇野市穂高地区に位置している。平成 13(2001)年、旧穂高中学校の東西 2 校への分割後、旧穂高中学校の校舎を受け継ぎ、穂高西中学校と共に、穂高町立穂高東中学校として開校した。東隣には近代彫刻家、東洋のロダンといわれる荻原礫山の美術館が、また、校区内には私塾「研成義塾」の創設者である井口喜源治の記念館や高橋節郎記念美術館などがあり、まさに文化の薫り高い地である。平成 17(2005)年、町村合併により穂高町立から安曇野市立に移行した。

現在の学校規模は、学級数 19 学級（うち特別支援学級 4 学級）、生徒数 男子 226 名、女子 246 名、計 472 名、職員数 47 名である。生徒は伝統を大切にしながらも、生徒会の「東中の ZERO」活動をベースに、新たな校風を創造し継続しようと意欲的である。開校以降、大きな災害や震災には見舞われてはいないが、近年は台風や大雨、さらには鳥獣や不審者等の出没に関連したメール配信システムの発信が増えており、突発的な災害に対しての迅速かつ正確な対応が求められていることを感じている。

「実践的安全教育総合支援事業」の指定を受け 5 年目及び「緊急地震速報受信システム」を導入して 5 年目を迎えた。学校防災支援アドバイザーとして、信州大学教育学部教授の廣内大助先生をお迎えし、助言をいただきながらの実践的な訓練を重ねることで、いざというときに自ら判断して行動できる生徒の育成を目指した取組を継続している。

2 安曇野市立穂高東中学校防災体制について

(1) 防護団組織

通報・連絡係	教務主任他	◇指示、通報、計時、旗・拡声器の準備、校内放送 ◇セコムや消防署への連絡
避難・誘導係	学年主任他	◇避難順路、要領、順路表、隊形、休み時間の避難方法 ◇防災予防、事前事後指導内容など
救護係	養護教諭他	◇病人けが人救助、保健室内の生徒避難誘導、担架準備 ◇救急箱や毛布の準備など
警備係	生徒指導係 他	◇避難遅れの生徒の救助、見回り、消防車などの誘導 ◇災害時における関係者以外の校内への進入阻止
消火係	消火係職員	◇消火訓練、消火器具の確認と保守管理
搬出係	搬出係職員	◇重要書類や貴重品等の搬出

(2) 避難訓練実施状況

① 第1回避難訓練（全体避難確認）

- 1 実施日 4月11日（木） 第3校時
- 2 訓練の重点・目的
 - (1) 在校時における災害（火災）を想定し、緊急時の避難経路や誘導方法の確認
 - (2) 各係（防護団）の任務の確認
- 3 訓練の内容
 - (1) 学級指導（生徒の確認、避難訓練の注意事項の確認など）
 - (2) 避難命令（火災を想定）
 - (3) 避難
 - (4) 防護団係活動

② 第2回避難訓練（地域と連携した防災学習・緊急地震速報システムを使って）

- 1 実施日 9月6日（金） 第5、6校時
- 2 訓練の重点・目的
 - (1) 緊急地震速報放送を聞き避難体勢をとり、地震発生後の全校避難を実施し、防災意識の高揚を図る。
 - (2) 地区ごとに分かれて、集団下校練習（地区担当職員引率）後、各公民館に集合。
 - (3) 各公民館での防災学習（区長等各地区の計画による）
- 3 訓練の内容
 - (1) 学級指導（生徒の確認、避難指導など）
 - (2) 関係機関への通報、一次避難（机の下などへの避難）
 - (3) 二次避難（全員講堂へ）
 - (4) 地区ごとの人員確認
 - (5) 地区ごと担当職員引率のもと自宅へ集団下校
 - (6) 自宅から各公民館へ各自集合
 - (7) 区長等各地区計画による防災訓練



③第3回避難訓練（事前通告なし）

1 実施日 11月29日（金） 6校時

2 訓練の重点、目的

- (1) 大地震発生を想定し、「緊急地震速報」の受信放送を体験し、地震発生前後の一次避難、二次避難訓練および防災アドバイザーによる講演を通して、緊急時の安全な避難への意識や、いざというときの判断力を高める。
- (2) 校内放送が故障し使えない場面を想定して実施し、非常時における指示伝達方法の確認および避難行動力を高める。

3 訓練および学習内容

- (1) 緊急地震速報放送の確認
- (2) 一次避難（机の下などへの避難）
- (3) 職員による地震発生後の校内への対応指示伝達および未避難者有無の確認
- (4) 二次避難（全員行動へ）
- (5) 信州大学教授（廣内大助先生／本間喜子先生）の講演

3 学校防災アドバイザーの関わり

(1) 11月5日（火） 事前打ち合わせ来校

- ・本校の訓練計画について、「学校の防災管理の手引き」及び県内先進校の取組や一般的な避難訓練における課題点をもとに御指導いただいた。
- ・今回行う訓練は、地震による停電のため、放送が流れない場面を想定し、職員が適切に指示伝達および未避難者の確認をどのように行うべきかを訓練するものであることを確認した。また生徒については、非常時に適切な行動をとることができるかを確かめる訓練であることから事前通告なしで行うことも確認した。

(2) 11月29日（木） 避難訓練当日来校

- ・講演会では「なぜ人は逃げないのか」という視点から、様々なバイアス（思い込み等による評価のゆがみ）がかかることを知り、状況と行動をパッケージ化し、まずは行動を起こすことの大切さを全校生徒・職員で学ぶことができた。
- ・生徒への事前通告なしであったが、生徒はよく動いていた。放送が流れないことを想定した訓練であったが、授業のない職員が事務室前に集まる等指示伝達や未避難者の確認方法をマニュアル化しておいたことから、スムーズに校内への指示伝達ができ、避難をすることができた。
- ・ただし、緊急地震速報の放送に対して“静かに聴く”という行動に出た生徒・職員がまだ見られた。救急地震速報は直後に来る地震に対する避難行動を素早くとることが大切である点をご指摘いただいた。“すぐに一時避難行動をとる”ことを習慣づけていきたい。
- ・また、残留者が出た場合には実際には現場に戻ることは困難であり、今回のように、確実な巡視を行えるように、巡視の際のチェックのやり方をマニュアル化し共有しておくことが大切。残留者を探すのではなく、残留者を出さないようにする。
- ・今後は、保護者への引き渡し訓練や、第一避難所である公民館への集団下校等、保護者や地域、小学校とも連携した訓練を計画する必要性を助言していただいた。ま

た、メール配信システムのアンケート機能を活用しての安否確認の方法なども紹介していただいた。

4 事業の成果及び今後の課題

- ・実践的安全教育総合支援事業の5年目は、地震速報受信システムを利用した実践的防災訓練を9月・11月に実施することができた。毎年、最低2回の実施により、緊急地震速報が流れた際、自分で判断して、適切な行動をとることができる生徒が増えてきた。今後、一次避難行動のみのショート訓練等を繰り返すことで、突然の緊急地震速報にも対応できるようにしていきたい。
- ・校内のそれぞれの場所での一次避難の仕方を図で生徒の目につく場所に掲示をするなど、日頃からどう行動すればよいかが分かる環境にしておくことを進めてきた。今後は、避難経路図を視覚的にも分かり易いものに変える等、充実させていきたい。
- ・廣内アドバイザーから、第一避難所である公民館への集団下校及び公民館からの保護者への生徒の引き渡し、小学校との連携訓練やメール配信システムの活用による安否確認について助言していただいた。今後、地域と連携した防災訓練等の中で、実施していきたい。
- ・危機管理マニュアル及び学校安全計画を見直し、学校の状況にあったマニュアルに修正するとともに、避難訓練の内容を3年間で一巡するようにカリキュラム化しておくことで、職員の異動にかかわらず、学校として引き継いでいけることも助言していただいた。生徒が自主的・主体的に動け、職員が組織的に動くことができるための、より実践的な防災訓練を継続的に実施し、防災教育を通して生徒・職員の防災への意識を高めていきたい。

(文責：教頭 田中 篤)

防災教育を中心とした学校安全総合支援事業の取組について

- － 緊急地震速報受信システムを利用した避難訓練，
ならびに，地域と連携した防災学習の実施について －

安曇野市立穂高西中学校

1 はじめに

安曇野市立穂高西中学校は，豊かな自然，澄んだ空気と美しい水に恵まれた安曇野市穂高有明地区に位置している。平成 13(2001)年，旧穂高中学校の大規模校解消のため，東西 2 校への分割後，新築された校舎で，穂高西中学校として開校した。『北アルプスの貴婦人』と呼ばれる燕岳は学区の山であり，さらに修験者の山としてそびえ立つ有明山のふもとに広がる田園地帯の雄大な景色は絶景であり，まさに自然豊かな土地である。平成 17(2005)年，町村合併により穂高町立から安曇野市立に移行した。

現在の学校規模は，学級数 16 学級（うち特別支援学級 4 学級），生徒数 男子 208 名，女子 204 名，計 412 名，職員数 37 名である。生徒は伝統を大切にしながらも，生徒会活動をベースに，新たな校風を創造し継続しようと意欲的である。

開校以降，大きな災害や震災には見舞われてはいないが，近年は台風や大雪，さらには鳥獣や不審者等の出没に関連したメール配信システムの発信が増えており，突発的な災害に対しての迅速かつ正確な対応が求められていることを感じている。

「緊急地震速報受信システム」を導入して 5 年経ち，今年度再び「学校安全総合支援事業」に参加した。学校防災支援アドバイザーとして，信州大学教育学部名誉教授の榊原保志先生をお迎えし，助言をいただきながらの実践的な訓練を重ねることで，いざという時に自ら判断して行動できる生徒の育成を目指した取組を継続している。

2 安曇野市立穂高西中学校防災体制について

(1) 防護団組織

通報・連絡係	教務主任他	◇時間，指示内容，通報，計時，旗，拡声器，校内放送 ◇警備会社，消防署への連絡
避難・誘導係	学年主任他	◇避難順路，要領，順路表，隊形，休み時間の避難方法 ◇防災予防，事前事後指導内容など
救護係	養護教諭他	◇病人・けが人の救助，保健室内の生徒避難誘導 ◇救急箱・担架の準備
警備係	生徒指導係他	◇避難遅れの生徒の救助，見回り，消防車などの誘導 ◇災害時における関係者以外の校内への進入阻止
消火係	消火係職員	◇消火訓練，消火器具の確認と保守管理

(2) 避難訓練実施状況

① 第1回避難訓練（全体避難確認）

1 実施日 4月10日（水） 第3校時

2 訓練の重点・目的

- (1) 火災を想定した基本的な避難訓練（学級から担任の誘導で校庭へ避難）
在校時における災害（火災）を想定し、緊急時の避難経路や誘導方法の確認
- (2) 各係（防護団）の任務の確認

3 訓練の内容

- (1) 学級指導（生徒の確認、避難訓練の注意事項の確認など）
- (2) 避難命令（火災を想定）
- (3) 避難
- (4) 職員係活動

② 地域と連携した防災学習

1 実施日 9月6日（金） 第5、6校時

2 訓練の重点・目的

- (1) 中学生が地域防災に対する当事者意識を持てるようにする。
- (2) 在宅時における災害等、緊急時の避難経路や誘導方法に関する知識を知り、適切な判断と行動により、安全に避難ができるようにする。
- (3) 地域の一員として、災害時にできることは、進んで協力しようという心構えを持てるようにする。

3 訓練の内容

- (1) 学級指導（地域と連携した防災学習の、目的・実施方法について説明）
- (2) 全員講堂へ入場。クラスごと整列完了。全体指導。
- (3) 地区ごとに整列完了。人員確認後、地区ごと集団下校。
- (4) 集団下校後、それぞれの自宅へ下校。自宅から各公民館へ各自集合。
- (5) 各公民館での防災学習（区長等各地区の計画による）



③第2回避難訓練（地震想定の実用的な避難（教科学習や休み時間・予告なし）と防災学習）

- | |
|---|
| 1 実施日 10月21日（月） 5, 6校時 |
| 2 訓練の重点・目的 |
| (1) 緊急地震速報放送を聞き、避難体勢をとり、地震発生後の全校避難を実施し、防災意識の高揚を図る。 |
| (2) 通常授業、移動教室先からの安全な避難経路の確認やいざというときの判断力を高める。 |
| (3) 校内放送が故障して使えない場面や、障害物を設置して避難経路を通れない場面を想定し、非常時における避難行動力を高める。 |
| (4) 防災学習を通して、起こりうる災害の予想をしたり、地震があったときの正しい行動の仕方について考えたりして、防災意識や判断力を高める。 |
| 3 訓練の内容 |
| (1) 緊急地震速報放送の確認 |
| (2) 一次避難（机の下などへの避難） |
| (3) 校庭への二次避難 |
| (4) 各教室に分かれての防災学習（災害の起こる町、地震が起こったときの行動） |

④ 第3回避難訓練（全国の緊急地震速報訓練を利用し、二次避難しない形での訓練）

- | |
|--|
| 1 実施日 11月5日（火） 10:00～10:05 |
| 2 訓練の重点・目的 |
| (1) 緊急地震速報を聞いて、身を守る一次避難と、その前後にできる行動について考え、判断し、行動できる。 |
| (2) 二次避難するときと、しないときの判断について、職員が考える。 |
| 3 訓練の内容 |
| (1) 緊急地震速報訓練を聞いての一次避難 |
| (2) そのとき授業のない職員による校内各所の点検、情報収集 |
| (3) 二次避難しない判断と生徒への伝達 |

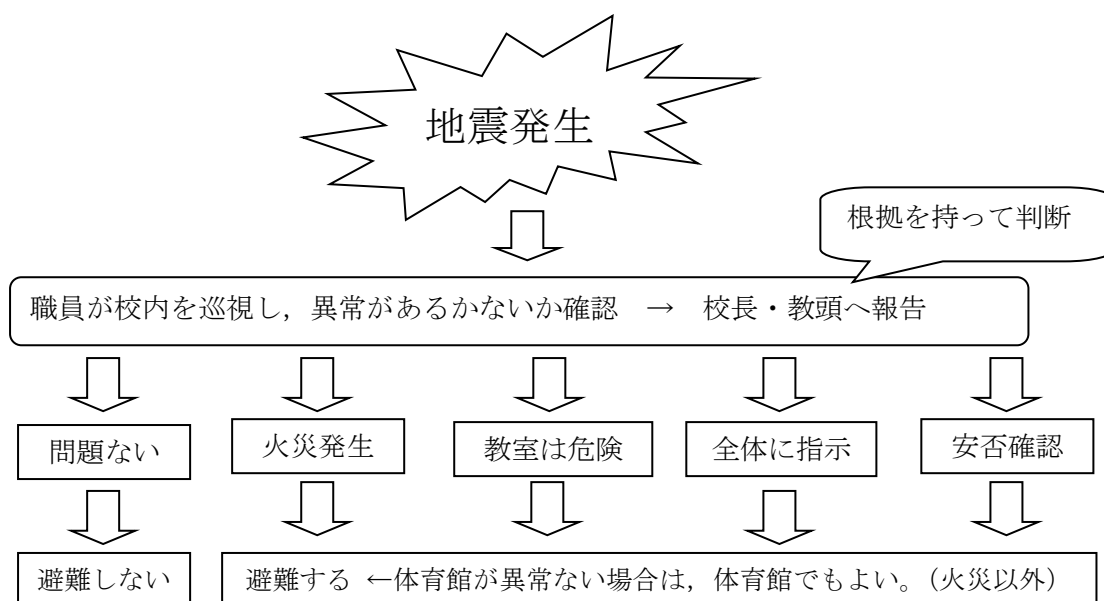
3 学校防災アドバイザーとの関わり

- (1) 9月19日（木） メールにて
 - ・本校の第2回避難訓練計画について、御指導いただいた。地震により放送機器が使えなくなった際等、普段と違う状況で身を守る行動のとり方の重要性について触れていただいた。
 - ・今回行う訓練は、放送が流れない場面を想定して行う訓練であることを確認した。生徒及び職員が、非常時に適切な行動をとることができるかを見る訓練であることも確認した。
- (2) 10月21日（月） 避難訓練当日来校
 - ・訓練及び防災学習の参観後、教頭および防災担当職員へ御指導いただいた。

○避難訓練の目的は、生徒の訓練よりも、職員の訓練（判断→指示・行動）が大切。
多様な訓練を。

○地震の場合、震度3は避難しない、震度4は避難する、を一つの目安に。

地震による火災発生、安否確認をしたい、放送が使えないために全体への指示が出せないときには避難する。



○直下型地震のように地震がいきなりきたら、すぐに机の下に入るなど頭を守る行動をとること。

緊急地震速報など、地震発生までに、少しでも時間があれば、出口を確保すること、窓ガラスの飛散防止のためカーテンを閉めること。理科の実験や家庭科の調理など、危険のないように片付け。特に、理科の酸・ガス・熱湯には注意。

○3年間のローテーションで、避難訓練の内容を。(煙霧体験、授業中、休み時間など)
消火訓練は、毎年行いたい。職員が扱えるように。

○引き渡し訓練は、幼・小・中が合同で行いたい。保護者にとっては、どういう順番で回った方がよいか分かる。移動があるので、中学生から迎えに行った方がよいのでは。

○引き渡し訓練で、引き渡し方、車の交通状況、引き渡す人などを確認したい。引き渡しのミスがないように、引き渡しカードを作成。

4 事業の成果及び今後の課題

- ・地震速報受信システムを利用した実践的防災訓練を10月・11月に実施することができた。毎年、最低2回の実施により、緊急地震速報が流れた際、自分で判断して、適切な行動をとることができる生徒が増えてきた。今後、ショート訓練等を繰り返すことで、突然の緊急地震速報にも対応できるようにしていきたい。
- ・学校防災アドバイザーによる教職員への研修の充実により、教職員の防災への意識の向上を図っていくことが必要である。特に、今回は、応用的な避難訓練である第

2回の避難訓練を参観，ご指導いただいたことをもとに，二次避難しない形のショート訓練を行うことができた。実際に近い訓練になりつつあることを実感している。

- ・危機管理マニュアル及び学校安全計画を見直し，学校の状況にあったマニュアルに修正するとともに，生徒が自主的・主体的に動けるための，より実践的な防災訓練を実施し，防災教育を通して生徒の防災への意識を高めていきたい。

（文責：教頭 太田 聖尚）

三郷小学校における防災管理・防災教育の充実に向けた取組について

～ 学校防災アドバイザー派遣・活用事業 ～

安曇野市立三郷小学校

1 はじめに

安曇野市立三郷小学校は、安曇野市の南側に位置し、児童数 名の大規模校である。近年は大地震が起きていない安曇野市であるが糸川岡構造線が常に近く、いつ大災害がおきてもおかしくない状況である。このような状況の中、三郷小学校は 名以上の児童を安全に確実に避難させるだけでなく、その後の保護者への引き渡しや、地域住民の避難場所開設方法など多くの責務を持ち、より綿密な災害計画や管理方法が必要とされている。

そこで今回、「緊急地震速報受信システム」を活用した避難訓練を行ったり、学校防災アドバイザーの指導を受けたりする事を通して、児童や教職員の防災意識の向上を図った。

2 三郷小学校防護団の組織・任務・構成

係	職員	任務
本部	団長 校長 副団長 教	・災害等緊急事態発生時、通報・避難・搬出・保護・警備・安全確保その他一切の指揮を執る。
連絡係	○教務主任 安全係主任 事務職員	・本部の指示を受け、災害・避難状況、火通報、消防署との連絡等対外的連絡にあたる。 ・災害状況・避難の様子との連絡 ・本部旗の準備 出火通報 ・消防署・警備会社との連絡 ・市教育委員会との連絡 ・常ベル発報
児童誘導係	各学年職員	・児童を落ち着いて速やかに避難させ、避難完了後の児童を掌握する。
巡視係	各学年職員	・全体避難時の残留児童有無の確認、火気の点検、犯、盗 止にあたる。 ・不明児童がいた場合及び休み時 の場合、本部の指示で児童捜索にあたる

搬出係	各学年職員	・本部の指示に従い、要搬出書類・児童名簿・引き渡しカード・工具等必要品の搬出、及び、管理にあたる。
消火係	各学年職員	・災害時の初期消火にあたる。 ・平時においては、消火器・消火ホース・消火用バケツ・非常ベル等の点検につとめ、その管理にあたる。
救護係	○養護教諭	・災害時における負傷者の救護にあたる。 ・平時においては非常時に備え、薬品・救急用具の点検や整備につとめる。

3 学校防災アドバイザーの関わり

(1) 1 月 日 水

校内巡視 学校防災へのアドバイス 教頭 防災係 職員研修の内容打ち合わせ
アドバイスいただいた内容

- ・大きな地震が来た時の対策例の紹介。例えば、図書館の本棚にキャスターがついている場合、大きく移動してくる場合があるので、固定をしておく。また、大型テレビなどの ICT 機器を使用中に地震が起きた場合、子どもの方へ向かって倒れてしまう場合がある。そのような事態を避けるため、大型テレビにはロープを付けて固定をしておく。キャスターにはロックをかけておく等の対策を紹介していただいた。
- ・特別教室での授業時間や休み時間等に地震が起きた場合、教室へ戻ってきて机の下に隠れようとしたり、掃除ロッカーなど狭いところに身を隠そうとしたりする等、子どもたちは予期せぬ行動をとってしまうことがある。様々な場合を想定して訓練を積んでいく必要である。

(2) 月 日

三郷小学校職員を対象に学校防災に関する講演をしていただいた。

講演していただいた内容

- ・長野県や安曇野市は地震が少ない地域であると思い込んでいる人が多いが、これまでの災害状況や構造線等の状況からみると、決してそのような事実は無く、むしろ非常に注意が必要な地域である。
- ・安曇野市で地震が起きた場合に考えられる、学校として必要な動きについて。
 - ① 児童の避難が完了した後、児童の引き渡しが必要であるが、保護者の駐車場が確保できるのか。また、中学校にも兄弟がいる家庭への配慮が必要になることから、中学校とも連携した引き渡し訓練の必要性が見えてくる。
 - ② 引き渡しができない児童がどのように学校内で生活をするのか、また、避難所となった際に職員がどのような準備をしたらよいか把握しておく必要がある。日ごろから地域の方々とよく連携を図っておく必要がある。
- ・安曇野市内の小学校の防災対策事例紹介。
 - ① 児童が廊下で地震に遭った際、近くの安全な場所を指示するイラスト付き避難ポスターの掲示
 - ② 児童に知らずに避難訓練を実施する等、実際の状況に近い訓練をする。
 - ③ 職員が訓練の流れをすべて把握した状態では、緊張感をもつことができないので、職員に知らせずに児童がケガをしたり、行方不明になったりした状況での訓練を行う。

4 事業の成果及び今後の課題

緊急地震速報を設置していただき、それを利用した防災訓練を行った結果、迅速かつ簡単に避難放送をかけることができた。また、地震が起きている時の音を流す機能を使ったところ、「臨場感のある防災訓練となった。」「子ども音の激しさに動揺する子どもの姿も見られたが、実際はもっと混乱をすると思うので、現実に近い良い訓練になった。」と効果的な訓練ができたことが分かった。

また、防災アドバイザーの指導を受けたことで、安曇野市が安全な地域であるという思い込みや、「きっとなんとかなるだろう。」と思ってしまう意識を変えることにつながった。より綿密な計画や訓練、日ごろからの地域や保護者との連携を図っていくことの必要性を感じられる機会となった。

これを受けて、来年度以降の防災訓練の見直しや充実を図り、引き渡し訓練だけでなくその後の避難生活の準備など、先を見越した準備をしていきたい。廣内先生をはじめ関連部署や機関の方々にご協力いただき、充実した事業となった。

文責 教諭 渡辺海

学校安全総合支援事業による三郷中学校の防災管理、防災教育の充実に向けた取組

— 緊急地震速報受信システムを利用した初の避難訓練の実施について —

安曇野市立三郷中学校

1 はじめに

本校は、安曇野市の南部、松本市と隣接する場所に位置する、全校生徒 532 名の学校である。西には、北アルプスの山々がそびえ、南には梓川、東には犀川などの大きな河川に囲まれた土地である。学区は、梓川及び黒沢川の扇状地上の緩やかに傾斜地に広がっている。本校は、これらの河川により形成された扇状地堆積物の上に立地している。

このような土地に立地する本校の近辺には、糸魚川 - 静岡構造線が存在し、今後 30 年以内に震度 6 弱以上の地震に見舞われる可能性が高いと言われている。このため地震発生時には、安全かつ迅速な対応が求められている。

そこで、本校は、本年度から「学校安全総合支援事業」に加わらせて頂き、学校アドバイザーとして信州大学教育学部教授 廣内 大助先生を講師にお迎えし、助言を頂きながら、緊急地震速報受信システムを利用した初の避難訓練を実施するなどの取組を行ってきた。

2 安曇野市三郷中学校の防災体制について（概要）

(1)本部

- ・本部設置、原則として校庭
- ・本部用品の持出し（旗、メガホン、生徒名簿、防災無線など）
- ・火災発生時の通報、通告、指令、渉外
- ・避難状況の観察

(2)救護

- ・治療活動（応急処置）
- ・薬品類、担架等は常時用意し、所在を明確にする。

(3)消火係

- ・常に消火器具の点検、整備をするとともに、取り扱い方を知っておき指令により消火を行う。

(4)消火器係

- ・初期消火、消火器、消火栓の場所の確認。

(5)警備係

- ・指令により、校舎周辺及び搬出物の確認監視に当たる。

(7)誘導係

- ・消防車、救急車を、安全かつ適当な場所に誘導する。

(8)点検扉係

- ・生徒の残留がないか確認し、閉っていない場合は閉める。



3 緊急地震速報受信システム設置前の避難訓練について

(1) 昨年度までの避難訓練計画

- 昨年度までは、緊急地震速報受信システム設置前の避難訓練の最初の手順は、以下のように行っていた。

段階	時間	職員の活動	備考
火災発生 通告 避難通告	15 : 35	○放送により、対応を指示（教頭） 「訓練、地震発生。しばらく様子をみます。その間、机の下に入って次の指示を待ちなさい。」（2度繰り返す） （間をおいて1分程度）	○全員静かにし放送を待つ。 ○放送を最後まで静かに聞く。 ○机の下に入り次の指示を待つ。
	15 : 36	○警報ベルにより火災発生を知らせる。（教務主任） ○職員室から火災現場を確認して職員室へ報告（古澤）	
	15 : 37	○放送指示（教頭） 「訓練、調理室から火災発生。延焼の恐れあり。全員ただちに校庭に避難せよ。以上」 （2度繰り返す） ○避難経路図に従って避難させる。 ＊雨天の場合は、講堂へ避難。	○落ち着いて安全に避難する。 ○職員の指示、行動（大きな声で、明確に！） ※職員は清掃分担場所へ行き誘導・避難させる。 ・静かに放送を聞かせる。 ・避難場所へ誘導、避難させる。

4 緊急地震速報受信システムを利用した避難訓練

(1) 学校防災アドバイザーの指導による避難訓練の計画の変更

事前の指導実施日：9月18日（水）

- ① 3(1)の計画について、学校防災アドバイザーにご指導を頂き、以下のように変更した。

	時間	職員の活動	備考
	15 : 35	【緊急地震速報を流す】 ○全員、速報が流れ始め次第、机の下に入る。ガラスの近くから離れるなど安全対策をとる。 ○放送により、対応を指示（教頭）「訓練、地震発生。校内の状況を確認します。その間、机の下に入って次の指示を待ちなさい。」（2度繰り返す） ○職員は近くの被害状況を確認し、避難経路を確保する。 ○職員室による職員は教頭の指示により、次の場所を確認し、職員室教頭へ報告する。	○机の下に入り次の指示を待つ。 ○全員静かにし放送を待つ。 ○放送を最後まで静かに聞く。 ・ 2 棟東階段 ・ 2 棟西階段 ・ 3 棟東階段 ・ 3 棟西階段 ・ 4 棟調理室（家庭科主任） ・ 4 棟理科室（理科主任）
火災発生 通告	15 : 38	○警報ベルにより火災発生を知らせる。（教務主任） ○職員室から火災現場を確認して職員室へ報告（家庭科主任）	○落ち着いて安全に避難する。 ○職員の指示、行動（大きな声で、明確に！） ※職員は清掃分担場所へ行き誘導・避難させる。各部屋を確認しながら全員の生徒を確実に避難させる。
避難通告	15 : 39	○放送指示（教頭）「訓練、調理室から火災発生。延焼の恐れあり。全員ただちに校庭に避難せよ。以上」（2度繰り返す） ○避難経路図に従って避難させる。 ＊雨天の場合は、講堂へ避難。	・ 静かに放送を聞かせる。 ・ 避難場所へ誘導、避難させる

② 学校防災アドバイザーの指導による避難訓練計画の変更の要点

- 変更点その1**：緊急地震速報が流れ始めたら、すぐに机の下にもぐる、ガラス窓から離れて安全な姿勢をとる等の安全対策を各自が行うこと。速報が流れるころには、地震が到達してしまう場合もあるため。
- 変更点その2**：地震により火災が発生していないか確認していないかの確認だけではなく、地震により避難経路が通れないこともあるため、避難経路を確認してから安全に避難するようにすること。
- 変更点その3**：一旦避難してから校舎内に残留者を探しに戻ることも危険であるため、避難しながら残留者が教室等にいないか確認しながら避難すること。

(2) 緊急地震速報受信システムを利用した避難訓練の実際

避難訓練実施日：10月29日（火）

① 職員の反省より

- ・生徒は、緊急地震速報を聞いたらすぐに安全な姿勢をとるという意識が薄く、このことを確認するよい機会になった。
- ・緊急地震速報が流れた時に、ガラス窓の周辺に座る生徒もいたため、事前指導を徹底して行っていきたい。
- ・ハンカチをもっていない生徒がいたため、日頃からの指導が必要である。



- ・全体的には、落ち着いて静かに整然と避難することができた。
- ・地震が起こった後の教室や廊下の写真の資料があると、どう逃げたらいいかイメージしやすい。

5 学校アドバイザーによる事後の指導と今後の課題

事後の指導実施日：1月9日（木）

① 学校アドバイザーによる指導内容

- 安曇野市教育委員会 大倉主任に避難訓練当日の動画を撮影していただき、アドバイザーに見て頂き、次のような助言を頂いた。

- ・緊急地震速報が鳴った後に、廊下から教室の机の下に入った生徒がいたが、廊下でガラス窓から離れ、頭を抱えるなど安全な姿勢を取ればよい。
- ・残留者を確認する先生が何をするか明確にしておきたい。例えば、次のような点について。

- ①教室内に残留者がいないか声をかける。
- ②教室内の死角を全て見る。
- ③教室内を覗くだけでなく、開けて入って確認するようにする。
- ④その教室を見たことが分かるように、教室の入口の戸や壁などにチョークで大きく○印をするようにし、残留者を確実になくすようにする。

- ・各場所に応じた避難態勢をとることができるように、頭を抱えて座る等のイラストを掲示する

ようにする。

- ・3年間の三郷中の避難訓練計画を作成したい。入学してから卒業するまでの間に、様々なパターンの避難訓練を生徒が経験することができるようにしたい。

- 今後は、以上のような学校アドバイザーに頂いた指導内容を今後の本校の防災管理・防災教育に生かしていきたい。

防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業の取組について

—緊急地震速報受信システムを利用した避難訓練の実施について—

安曇野市立堀金小学校

1 はじめに

本校は北アルプスの南東に開けた安曇野市の堀金地区に位置している。明治 19 年、学区改定により 5 校が廃止され「村立堀金学校」（烏川・小倉・科布村連合）として開校以来、平成 28 年で 130 周年を迎えている。その後幾多の変遷があり、昭和 30 年三田村・烏川村の合併で「堀金村立堀金小学校」、平成 17 年の町村合併により「安曇野市立堀金小学校」と校名を変えてきた。現在の学校規模は 20（うち特別支援学級は 3）学級で、児童数は 508 名である。かつて数年前までは、松本市のベッドタウンとして住宅数も増加したが、現在は減少傾向にある。

安曇野市が作成したハザードマップによると、本校は土砂災害警戒区域や浸水想定区域からも離れ、安全と思われる場所に立地し、指定避難所に指定されている。しかし、市内東部を南北に糸魚川ー静岡構造線（推定位置は本校から直線距離で約 5 km）が走り、震度 7 クラスの大地震が起きる可能性は非常に高い地域である。それらに対処するために、「実践的安全教育総合支援事業」の指定を受け、「緊急地震速報受信システム」を導入した。今年度は、そのシステムを利用した非常事態時の更なる迅速な行動について訓練を行った。

2 防災体制について

本校の防護団組織について

係名	担当者	主な業務内容
本部 (通報連絡含む)	校長・教頭・ 教務主任・ 安全係・ 事務職員	・全体統括・指導 ・外部連絡・緊急速報・報告 ・児童、職員、施設等の被害状況等の把握 ・避難命令の通達・消防署・警察署・関係諸機関への連絡・保護者への連絡 ・外来者受付
警備・点検係 (安否確認・災害 状況確認・二次被 害防止)	年度毎変更	・校舎内残留児童の確認 ・外来者の誘導 ・交通整理 ・被害状況の把握と安全確保、危険箇所などへの立ち入り禁止措置、二次災害防止 ・校舎内外の備品等の盗難防止、警備。
避難誘導係	教務主任・ 学年主任	・避難場所への児童誘導と把握（人員確認等）及び本部への報告 ・第二次避難場所への避難経路確保と安全な誘導 ・通学路の安全確認 ・保護者への児童引き渡し、残留児童の安全確保

救 護	養護教諭 他	・怪我人の救護及び応急手当、応急措置後の救援要請 ・応急医療用具・薬品確保 ・校医や医療機関への連絡 ・児童の心のケアの実施
搬 出 (救援物資係)	年度毎変更	・非常持ち出し品の搬出 ・非常持ち出し品の確認・保管（日常） ・本部及び各分担の運営に要する備品類の確保 ・残留児童及び教職員の食料、飲料水、寝具、防寒具など確保
消火係	年度毎変更	・初期消火活動 ・消火設備の点検確認（日常） ・電源・ガス栓・ストーブなどの安全確認

3 緊急地震速報受信システム導入の経過と防災訓練

- (1) 教職員に対するシステムの説明、研修
- (2) 児童に対する指導
 - ・緊急地震速報訓練モードを利用した放送を実際に流し、音と行動の確認を行った。
- (3) 緊急地震速報受信システムを利用した避難訓練
 - ・緊急地震速報受信システムの訓練モードを利用した、地震に備えるためのショート訓練の実施。
(以上前年度まで)

(4) 今年度訓練の実績

- ① 4月26日(金)
火災を想定し、新年度の教室からの避難経路を確認することを目的とした避難の基本を確認する訓練。
- ② 5月14日(火)
非常時の安全な下校の仕方を身につけるための集団下校訓練。下校のコースを新たに見直して実施。
- ③ 9月26日(木)
震度5以上の地震が発生し、建物倒壊の恐れがあることを想定した避難。
- ④ 9月26日(木)
引き渡し訓練。保護者に実際に迎えに来ていただき、地震発生後における児童の円滑な引渡し方法の周知・徹底を図るための訓練。
- ⑤ 11月6日(水)
地震後の火災発生を想定し、火災発生時に降りる防火シャッターの仕組みを理解することを目的とした訓練。



4 学校防災アドバイザーの関わり

- (1) 昨年度の防災アドバイザー信州大学廣内教授講演後の校内施設安全対策の推進
 - ① 校舎内安全地帯の明示
休み時間や清掃中、担任と共に集団行動していない時に地震が起こった際、どこにしゃがみシェイクアウトの体制をとるのが安全かを考え、校舎内約40箇所に安全のマークの掲示を行った。

② 特別教室におけるシェイクアウト

階段や棚の多い特別教室で、どこにいたことが安全かそれぞれの部屋へ掲示を行った。また、大きなキャビネット等に紐を張るなどの措置に着手した。

(2) 本年度の取組

本年度は、防災アドバイザー信州大学の廣内教授と本間喜子教准授、および安曇野市教育委員会の大倉主任にご来校いただきアドバイスをいただいた。

① 事前打ち合わせ 9月11日(水)

9月26日の避難訓練後に行う引き渡し訓練について、教頭と防災安全係とで廣内教授に事前にアドバイスをいただいた。

前年度は土曜参観日の後に行われた引き渡し訓練であったため、保護者と共に児童は下校し混乱なく行えた。しかし、実際に災害が起こった場合は、保護者は家や勤め先から車で児童の引き取りに来校すると思われる。そのため、今年度は実際の状況を想定し、平日の引き渡し訓練を計画した。いかに安全に迅速に児童を保護者に引き渡すことができるか、事前の準備、当日の職員の動き、保護者の誘導等の留意点を確認した。

② 避難訓練・引き渡し訓練当日 9月26日(木)

安曇野市教育委員会大倉主任より、緊急地震速報受信システムを活用した地震の際の児童の動きについて再確認が必要な部分をご指摘いただいた。また、引き渡し訓練は校舎内外の案内表示の工夫により保護者のスムーズな誘導を行うことができた。

③ 職員研修会 1月22日(水) 職員防災教育研修

昨年度は防災アドバイザー廣内先生より、校内対策として退避・避難方法の掲示、転倒・転動物の固定、安全地帯の明示などご指導いただいたため、今年度は本間喜子先生より、非常時の行動について心理学の視点から講演をいただいた。

心の平安を守るための「正常性デバイス」という働きが、非常時の際の避難行動を妨げてしまうお話をいただき、より一層普段の訓練の重要性がみえてきた。

5 事業の成果及び今後の課題(まとめ)

- (1) 一昨年度からの緊急地震速報システムを活用したショート訓練を重ねているため、最初の速報音で迅速に反応する児童が多い。しかし、新入生や、新任職員は緊急地震速報システムに不慣れなため、咄嗟の行動に不安があったようだ。毎年ショート訓練は必要なことが今年度の訓練の様子から伺えた。今後も、指示がなくとも適切な退避行動を自分で考え身の安全を図ったり、自分で避難経路を考えたりできる児童の育成を継続して目指したい。
- (2) 昨今は異常気象による災害も増加しており、指定避難所に指定されている本校も災害発生時における避難所の開設の際の動きについてマニュアルを作成する必要がある。来年度の防災安全の計画を考えるプロジェクトチームを中心に検討を進めていきたい。
- (3) 今年度は実際の災害状況を想定し平日に引き渡し訓練を行った。廣内教授からご指導いただいたことを元に、より確実な保護者への引き渡しが可能になるよう、引き渡しにおける交通対策や引き渡し簿の見直し、常設すべき校内誘導看板の工夫等、さらなる安全対策を講じていきたい。

(文責 教頭 百瀬みさ子)

実践的安全教育総合支援事業（４年目）の取り組みについて

－ 学校・家庭・地域・行政が連携した防災 －

安曇野市立明南小学校

１．本年度の取り組みについて

本校は、糸魚川 静岡構造線の外縁に位置し、内陸型地震の発生確率が極めて高い場所に立地している。そのために、より実効的な避難訓練が求められ、平成 年度より「緊急地震速報受信システム」を導入し信州大学教育学部教授の廣内大助先生 県学校防災アドバイザー より支援をいただきながら防災への取り組みを行ってきており、昨年度は、「学校・家庭・地域で連携する防災の取り組み」と題してお話をいただいた。

講演会には全職員、PTA 役員の他、区長の出席もあった。廣内先生からは、岡山での風水害や、熊本の地震の際、学校と地域が実際にどのように行動したのかという報告があった。中でも学校と地域が日頃から交流している地域では、避難所となった学校内での運営が円滑だったとのお話もあり、学校・家庭・地域で連携する防災について考える機会となった。

今年度は昨年度の「学校・家庭・地域で連携する防災の取り組み」について学校と地域が合同でお聞きした廣内先生の講演会をきっかけとして、さらに踏み込んで、この地域が実際に災害に見舞われた時に、本校が、市 危機管理課 や地域とともに具体的にどのような対応をする計画になっているのかについて市からの説明を保護者や地域の方々と確認し、廣内先生のご指導をいただきながら、本校の置かれた状況に合わせた被災時の対応について考えていく機会を設けたいと考えた。

２．防災説明会参加の呼びかけ

学校教育課と相談し、地域の方々に災害時の意識を強く持つってもらうためにも、保護者や地域 区長など に広く参加を呼びかけた。安曇野市からは危機管理課の職員を招き、防災倉庫の中を見たり、実際に体育館に物資を展開した後、災害に遭遇した場合の、市・地域・家庭・学校の具体的な行動についての説明を受け、その後は地域の方々との質疑応答を行い、廣内先生からお話をお聞きするという形で、明南小学校区の「防災説明会」を企画した。

折しも台風 号による千曲川の氾濫 10/13 等、県内に甚大な被害があり、災害が身近であったことから、他人事ではないという意識も高まり、災害時どのように行動するのかについて考えるよい機会になるのではないかと考えた。

案内は、保護者、区長、明科中学校保護者に出し、参加を呼びかけた。

3. 防災説明会当日の様子

○防災倉庫の見学 15:00～



市の危機管理課職員の説明を受け、現場で、防災倉庫の中身を参観者に見ていただいた。

明科地区の防災倉庫には、以下のものが格納されている。防災倉庫というと食糧があるのかと思われるが、安曇野市は、食糧や資材を分けて格納しており、必要なものは市の判断で移送するとのことであった。道路が寸断された場合はどうするのか不安はある。

1) 開会 15:30



2) 防災用品の体験 15:35～16:10 (30分)



段ボールベッド



ワンタッチパーテーションファミリールーム

パーテーションファミリールームは、災害時、屋内での集団避難生活における被災者のプライバシー（更衣や授乳など）を確保するためのもの。



避難所物資の見学

3) 災害時の対応についての説明と質疑 16:10～16:25

①安曇野市危機管理課による、被災時の避難所についての説明



市危機管理課の説明と質疑は、以下の通り

- ・市危機管理課 被災した場合、近隣住民が学校へ避難してくることが予想されますが、建物の安全を、市が委託した建築士による危険度判定により OK がでないと、指定避難所（学校）の開設はできないので、その場合は、OK が出るまで公民館などの「指定員級避難所」に避難してください。
- ・区長 学校がこんなに近くにあって、公民館に行くのか。その公民館がつぶれていたらどうするのか。
- ・市危機管理課 その場合は遠くの公民館などに行っていただきます。
- ・区長 年寄りなどがいても歩かせるのか。
- ・市危機管理課 近くの公民館がだめな場合は、遠くまで行ってもらいます。

市危機管理課としては、指定避難所になっている学校の避難所としての開設は、建築士の許可があるまでは立ち入りは禁止であり、そのことは学校職員も理解しておくよう確認があった。この市危機管理課からの確認については、保護者、職員、区長ともに疑問を感じる部分だった。

②信州大学教育学部教授の廣内大助先生（県学校防災アドバイザー）によるお話



廣内先生からは、熊本の地震の被災時に、住民が学校に押しかけてきて、学校での対応を行ったという事例も出され、今後、安曇野市危機管理課が、事例に学びながらいくつかの対応を考えていく必要があるとのお話があった。

また、今回、学校、家庭、地域が、このような説明会の機会を設けたことが、今後の地域の防災の一步になるとのご意見をいただいた。

5) 閉会 16:40～

4. 防災説明会を終えて

今年度は昨年度の「学校・家庭・地域で連携する防災の取り組み」について学校と地域が合同でお聞きした廣内先生の講演会からさらに踏み込んで、この地域が実際に災害に見舞われた時に、本校が、市（危機管理課）や地域とともに具体的にどのような対応をするのかということについて、安曇野市危機管理課の計画を、学校職員、保護者（PTA）、地域（区長）で同じ場所で確認をしたという点が一つの成果としてあげられると思う。

今後、安曇野市危機管理課の計画に、学校としてどのように対応していくかということについて、いくつかの場面を想定して職員で考えるとともに、保護者、地域の方々との相互理解と協力の方法をさぐっていく必要がある。また、学校教育課との連携を図り、対応について考えていくことも必要であることがわかった。

熊本が被災した際、学校が避難所となったが、日頃から地域とのつながりが深かった学校においては、避難所が住民の協力によって円滑に運営されたとの廣内先生のお話があったが、そうした日常的な学校と地域とのつながりの大切さを感じた。

本校では昨年度から「とんがりサポート」という学校ボランティアを募集し、これまで、1年生の登校後の支援や校地内の草取り、遠足の随行やPTA活動の米作りへの支援など、様々なボランティア支援をいただいている。こうした地域とのつながりを大切にしながら、被災時の対応を計画していくことも大切だと思う。

（明南小学校 教頭 春日三千郎）

明北小学校における防災教育の充実に向けた取組について

— 学校防災アドバイザー派遣・活用事業 4年目の報告 —

安曇野市立明北小学校

1 はじめに

安曇野市立明北小学校は児童数108名の市内で一番小規模な学校である。安曇野市内の北東に位置し、校舎の裏側にはかんだち山、校舎から200メートルほど離れた位置に犀川が流れている。自然環境が豊かな地域であるが、校舎の東は土砂災害警戒区域（急傾斜）に指定されており、ひとたび地震や豪雨に見舞われると、土砂崩れや河川氾濫などの危険に見舞われることが予想される。実際本年度の台風19号の時には、学区内に床下浸水や、土砂崩れの被害が出た。また、職員の多くは明科地区以外の安曇野市内から通勤してきているため、明科駅のおよそ南西にある「松本盆地東断層」がずれて国道19号線が陥没したり犀川橋が崩壊したりした場合、職員が自宅から学校までたどり着けないことも予想される。

2 学校防災組織

係	職 員	任 務	
防火管理者	校長	安曇野市立明北小学校「消防計画」による	
防火責任者	教頭	安曇野市立明北小学校「消防計画」による	
本 部	隊長:校長	消防活動の最高責任者	・組織編制、全般の指揮、統率
	副隊長: 教頭	隊長の補佐、助言、代行	・施設整備、本部設置、警報、指令 ・外部への連絡、対応
	連絡係: (事務)	隊長、副隊長の指示を受け行動	・外部（消防署等）への連絡 ・本部旗の持ち出し・職員人数確認
本部付 統括責任者	教頭	・隊長の命令を職員へ伝達し、各係の状況を隊長へ報告する。 ・児童の避難や職員の避難誘導並びに警備、児童統括、消火、搬出、救護等の各係の指揮をとる。 ・校内に異常を知らせ、情報を流し、消防機関等へ連絡する。	
避難誘導 第一次行動	各学級担任 (8名)	・避難口や経路の解放、避難経路の確認、器具の設定等を行う。 ・児童を安全な場所へ避難誘導し、人員確認後本部へ連絡する。	
児童統括 第二次行動	○係主任	・避難後の児童の安全確保に努め、全体を統括する。 ・出席簿を保管する。	
警備 第二次行動	○1名 支援員(2名)	・第二次行動の際に、校舎内の状況や防火扉を点検する。 ・本部の指示で、不明児童の搜索と避難誘導を行う。	

消火	○男性職員	・消火器やバケツ、砂、消火栓使用による二次消火（補助の消火）を行う。
第三次行動	(庁務)	・消火誘導や水利確保、電源切断等の危険回避を図る。
搬出	○1名	・非常持ち出し物の明示、火災時の搬出・管理を行う。
第三次行動	庁務・市事務	・本部の指示に従い、重要書類や備品の搬出を行う。
救護	○養護教諭	・救護所を設置し、負傷者の手当てを行う。
第二・三次行動	図書館司書	・救護に必要な器具や設備の点検を行う。
管理点検者		・危険物の管理や消火器・用具・設備の点検を行う。

3 学校防災アドバイザーの関わり

(1) 一昨年度（2年目）の取組

昨年度2回目の地震による避難訓練は、教室以外の場所にいるときに地震が発生したという想定で、清掃終了5分前に緊急地震速報受信システムを利用した避難訓練を実施した。児童には事前に「特別教室にいるときどのように身を守ったらいいか」を各学級で考えさせ、個人あるいは学級でまとめておいた。

廣内先生からは避難訓練の後、「すぐに避難しなければいけないのに手を洗っている児童がいた」「先生方が見回ったところといないところがすぐに分かるよう、チョークなどでドアに印をつけるなどするとよい」等のご指導をいただいた。また、その後児童・教職員と希望する保護者に防災に関する講演会を行っていただいた。保護者の参加は2名のみであり、やや残念であった。

また、本校の災害対策計画を見ていただいた。避難所開設については日頃から地域の方々とはよく連携を図っておき、避難所も地域の方々の手による運営に任せ、学校は要請があったときのみお手伝いをする、授業再開に向けたマニュアルが必要であることをご指導いただき、明北小学校災害対策計画の見直しができた。

(2) 昨年度（3年目）の取組

11月2日（金）清掃中の抜き打ち避難訓練の様子を参観後、ご指導いただいた。昨年度と同様、事前に各学級で特別教室に行き「ここで地震が起きたら何が危険か、どのように身を守って避難すればよいか」を確認した。本年度はさらに、放送機器が使えない状況を想定しての訓練とした。教頭が拡声器を使って校内を回ったが、実際に震度5以上の地震が起きたときは、放送を待たずに近くの教職員の指示で校庭に避難することが必要であるため、各学級担任の判断で校庭に避難させることを教務会、職員会議で確認した。避難訓練後の各学級での振り返りの時間の様子も廣内先生に参観していただいた。その後、廣内先生からご指導いただいた。

同11月2日には明科三校（明科中学校、明南小学校、明北小学校）の保護者と明科地区の区長さんを対象に、「学校・家庭・地域で連携する防災の取り組み」と題して廣内先生の講演会を行った。各校のPTA役員、学校職員、地区長等約30名が講演会をお聞きし、学校と地域とが連携して防災にあたることの重要性を再確認することができた。

(3) 本年度（４年目）の取り組み

ア．緊急地震速報受信システムを利用した避難訓練

前年度に続き、２回の避難訓練において、緊急地震速報受信システムを利用した。５月１４日の引き渡し訓練では、放送にも慣れ、何が起きているのかすぐに理解できるようになってきている。１１月７日の避難訓練では、清掃中にもかかわらず、迅速に避難することができた。

イ．防災説明会の開催（１月２１日）

長野市の事例からもわかるように、いつ明科町でも災害に見舞われ、本校が避難所になるかわからない。実際、台風１９号では、学区内で一部の住宅で床下浸水だったり、土砂崩れが起きたりする被害があった。実際に本校が避難所になったときにどのように行動したらいいのか知っておく必要性を感じ、市の危機対策課にも協力をいただき、学区内の区長と保護者、職員に参加していただき、防災倉庫の見学や物品を展開したり、どのように行動したらいいのか説明していただいたりする説明会を行った。その後、廣内先生から、他の地震災害等で起きた避難所の様子等をお話しいただいた。

４ 事業の成果及び今後の課題

(1) 成果

- 昨年度までは、「放送が鳴って驚いた」「放送がこわかった」という感想が多く見られたが、繰り返し利用することで、本年度は、放送が鳴るだけで何が起きているのかつかめるようになってきている。
- 放送機器が使えないことを想定し、避難指示を拡声器で行ったが、場所によってはしっかり内容が聞こえなかったり、情報が伝わらなかった場所があったりしたので、職員が個々で判断して避難誘導を行った場所が多かった。今回は職員が想定を理解していたのでよかったが、情報を正しく伝えるために、必要最低限の情報を移動しながら連呼する必要性が見えてきた。
- 避難所の開設の手順や、自分達で避難所を運営していくことが理解できた。市の対応マニュアルについて説明をしていただいたが、廣内先生から熊本地震での実際の住民の動き等を説明していただいたことで、すぐには避難所は開設されなかったり、マニュアル通りいかないことが多かったりするなど、どのようなことが起きる可能性があるのかイメージをもつことができた。

(2) 今後の課題

地区と学校合同で対策訓練を行うなど、共同での動きを実際にシミュレーションしていく必要がある。

５ まとめ

糸魚川静岡構造線上に位置し、大きな河川がいくつか合流する明科にとって、災害はすでに他人事ではない。地区のみなさんも含めて、活動することで感じ、危機感を高めていきたい。

（文責 教頭 山口 敬之）